

第16回 わくわくコンサート ～みんなで楽しむ音楽鑑賞会～

第16回 わくわくコンサート実行委員長

玉井 亮輔

◆わくわくコンサートとは

わくわくコンサートは、小さなお子様や特別な支援を必要とする方など、普段コンサートに参加することが難しい方も含めて、誰もが気軽にホールで音楽に触れて楽しんでいただける機会を創出することを目的としたコンサート活動です。香川大学の学生が運営の中心として活動し、卒業生、演奏者、複数の企業、先生方や大学職員、団体等のご協力を得て、毎回無料でのコンサートを実現してきました。平成19年度にスタートしたコンサートは、ご来場くださる多くのお客様からご好評をいただき、今年度で16回目を迎えることができました。第1回からご支援いただいている松楠会の皆様には心より感謝申し上げます。



第16回 わくわくコンサート実行委員会

◆第16回 わくわくコンサート

今回は「Recovery 復活・回復」をテーマに選択し、テーマ地域をEU、テーマアルファベットを「R」として開催しました。

実行委員会は4月にスタートしていましたが、計画時には感染症の影響がどの程度あるのかを見通すことが難しく、計画づくりに苦労しました。10月の時点で、前年度のような事前予約制をとらず、十分なソーシャルディスタンスが取れる入場者数を800名に設定しました。実際には当日までに感染症をめぐる状況が徐々に緩和の方向に向かったこと、今回の会場レ

グザムホールの収容可能人数が多かったことなどもあり、実行委員会の予想を大きく超える1000名近いお客様にご入場いただくことができました。多くのお客様の笑顔あふれるコンサートとなり、本コンサートの人気が窺えました。ホール内で案内にあたった学生ボランティアの奮闘もあり、ソーシャルディスタンスを十分に確保することで、十分な感染症対策を実施することができたと思います。



スタッフの様子（コロナ対策：検温、消毒、手袋で対応）

プログラムは、以下の5曲で構成しました。

1. J. S. バッハ：G線上のアリア
2. W. A. モーツァルト：アイネ・クライネ・ナハトムジーク
3. S. ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番
4. M. ムソルグスキー/M. ラヴェル：展覧会の絵

★ラップ：ベートーヴェン：「歓喜の歌」より
バッハは没後1世紀ほどしてからメンデルスゾーン
の再演によって復活した作曲家です。子どもたちになじみ深いリコーダー（20世紀に復活した楽器）で演奏しました。またロマン派の作曲家ラフマニノフの「ピアノ協奏曲第2番」は自身の病気からの回復の契機となった作品です。プログラム最後に演奏した「展覧会の絵」は、ムソルグスキーが親友ガルトマンの遺作展を訪れてインスピレーションを受け、彼の作品を音楽として復活させたものです。ラヴェルの編曲によって50年後に世界に大きく羽ばたくことになりました。この作品の終曲は「キーウの大き

な門」です。音楽を通して平和を祈るプログラムとなりました。

今回の開催での取り組みを4つご紹介します。1つ目は、ホールの変更です。例年開催していたサンポートホールの改修に伴い、今年度はレグザムホール大ホールで開催することになりました。先述した通り、初めての会場、そしてより広いホールでの開催となったため、事前にホールの下見や打ち合わせ、スタッフの配置、物品や楽器の移動経路など、考えられる限りの検討を重ねて、慎重に準備を行いました。2つ目はプログラムの工夫です。RAP とクラシック音楽を融合する試みを取り入れました。テーマ地域 EU の公歌である「歓喜の歌」を RAP 演奏で実施しました。3つ



RAP:「歓喜の歌」より

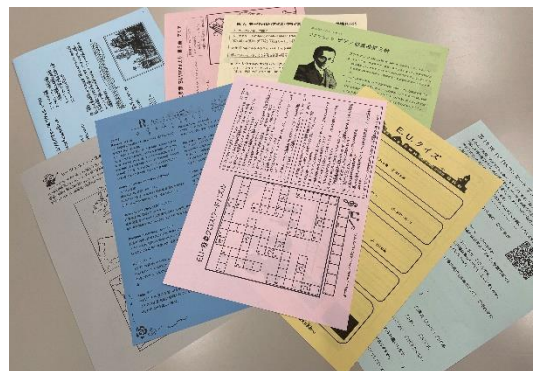
目は、香川ジュニアオーケストラ (KJO) との協力です。コロナ禍の状況であってもより良い演奏をと、学生との合同練習を行いました。4つ目はイベントの再開です。ロビーでの楽器体験などのイベントは中止せざるをえませんでした。コンサート終演後にステージ上で「大ホールでピアノを弾こう」と「指揮者なりきり撮影会」の2つのイベントを開催しました。どちらも、お客様が予約のために早くから開場を待ってくださるなど、大変好評でした。またロビーでは高松市立山田中学校美術部の生徒が EU の 27 か国の絵を描



EU27 国絵画展

き、展示を行いました。生徒たちが自分の興味で描く国を選択し、いろいろなことを調べて描いてくれました。

他にも当日ご来場いただいたお客様に待ち時間も楽しんでいただくための工夫を行いました。1つは、資料作成に力を入れたことです。EU クイズやクロスワードパズル、さらに「R」と関連のある EU の紹介資料や曲目解説資料を作成しました。社会科専攻の学生達はモーツァルトが幼いころから旅したヨーロッパの旅程を解説した資料を作成するなど、楽曲だけでなく作曲家についてや、作品の背景も知っていただくことができたのではないかと思います。



お客様にお渡しした資料

さらにコンサート開始前には早くから来場した子どもたちが「席に座って開演を待てるよう」、そして、「これから始まるコンサートについて紹介したい」との思いから、楽曲や EU 各国を紹介するビデオを作成しました。シナリオを作成し録音したセリフと映像を合わせることは難しく、苦労の末、コンサート直前に出来上がりました。ホールボランティアから、「あれがあったから、子どもたちは椅子に座っていられたよ」と、うれしい声もいただきました。

コロナ禍での3回目の開催となりましたが、昨年度の改善点を活かすことができたのではないかと思います。とはいえ、まだまだ改善点も多いコンサートですが、参加したボランティア学生の100%が、終了後アンケートでは「この行事に意義を感じた」と回答してくれました。昨年度からの変更点も多く、思い通りに計画するのが難しい点もありましたが、私たちにとってかけがえのない貴重な経験となりました。

最後になりましたが、たくさんのご協力、ご支援を頂戴いたしました松楠会の皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。